

# 道徳指導案

日 時 平成 29 年 10 月 27 日（金）公開授業Ⅱ  
児 童 6 年生  
授業者  
授業場

## 1 単元名（主題名） 「東日本大震災からの教訓」

## 2 単元の目標

東日本大震災に関する様々なエピソード（資料）をもとに、そこに内包される道徳的価値（ねらいとする道徳的価値）について考え、議論することを通して、「生命の尊さ」「規則の尊重」「友情、信頼」等の側面から、今後の自己の生き方につなげていくべきこと（教訓）について深く考えることができる。

## 3 単元について

### （1）単元観

「東日本大震災からの教訓」をテーマに、全 6 時間の単元で道徳授業を構築する。主たる内容項目は以下のようにになっている。

	主たる内容項目	資料名
第 1 時	A・(1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任	東日本大震災のある記事から
第 2 時	C・(14) 勤労, 公共の精神	仮設住宅のグリーンカーテン
第 3 時	C・(12) 規則の尊重	外国からのメッセージ
第 4 時	B・(10) 友情, 信頼	大切なひと
第 5 時	D・(19) 生命の尊さ	いつまでも繋がらない母の携帯電話
第 6 時	D・(19) 生命の尊さ	語り継がれる教訓

※第 1・2・5 時資料：千葉県教育委員会作成『東日本大震災に学ぶ道徳教育』で活用する教材より

※第 3・4 時資料：福島県教育委員会作成 ふくしま道徳教育資料集『生きぬく・いのち』より

※第 6 時資料：埼玉県教育委員会作成「彩の国の道徳『心の絆』」より

「A：主として自分自身に関すること」「B：主として人との関わりに関すること」「C：主として集団や社会との関わりに関すること」「D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」をバランスよく単元に配置することで、最終的に様々な視点から教訓を考えることができるようにしている。また、主たる内容項目の他に、関連する内容項目や、対立する内容項目を配置することで、児童の多様な考えを制約することなく、議論する中でねらいに迫っていきけるようにもしている（後段「4 学びの過程のデザイン」参照）。様々な価値を支える多様な価値観に触れることで多面的思考を、自分にとって価値ある選択・判断を繰り返していくことで多角的思考を促し、そこから自己の生き方（教訓）について考えることができる単元構成となっている。

### （2）目指す児童・生徒像

それぞれのエピソードについて、多面的・多角的思考をもとに自己の生き方について考えていくとともに、全てのエピソード（様々な道徳的価値やそれを支える多様な価値観）を総合的に捉え直すことで、東日本大震災からの教訓（自己の生き方に結び付けて考える自分なりの解）を導き出す姿を目指す。

### （3）指導観

以上を踏まえ、本単元では、毎時間ねらいとする道徳的価値に対する「一面的な見方」から、対話的な学びを通して「多面的・多角的思考」へと「見方・考え方」を高め、それをもとに自己の生き方についての考えを深めていくことを前提とした上で、「全 6 時間を貫くテーマ」「全 6 時間を総合的に捉える場（イメージマップへの記述の積み重ね→キーワードの抽出）」を設定することで、6 つのエピソード全てを包含して捉える多面的思考を、「自分が考える『東日本大震災からの教訓』につながる価値や価値観を選択・判断する場」を設定することで多角的思考を促し、自己の生き方（教訓）を導き出すことができるようにする。具体的な単元構成及び学習活動、手立てについては、「4 学びの過程のデザイン」で述べる。

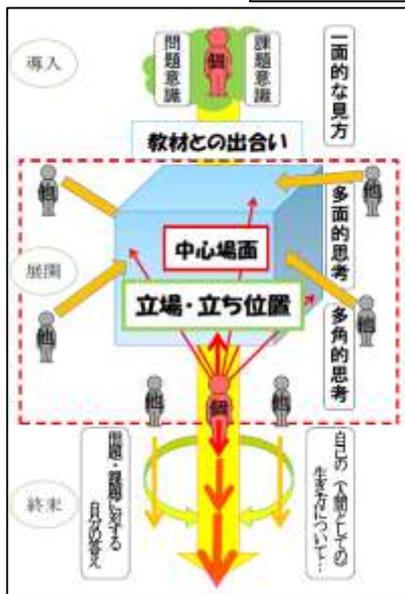
4 学びの過程のデザイン (全6時間) ※本時以外の各時間の細案は当日配付資料参照

下支えする主体的な学び	学習活動	手立て
<p>東日本大震災の映像を基に、被害を受けた人々やその家族はどのような教訓を得たのか、また、自分たちは何を教訓として生きていくべきなのかを問う中で、単元を貫くテーマ「東日本大震災からの教訓」を提示し、問題意識・課題意識が芽生えるようにする。 A-①</p>	<p>単元を通して付加されていく多面的思考 ※教訓としてイメージマップに追記されるフレーズ：想定 ※例 ①：エピソード①後の記述という意</p> <p>1 時間目 <b>東日本大震災の映像をもとに、東日本大震災の教訓とは何かを考え、イメージマップに書き込む。</b> ～エピソード①～ 資料：東日本大震災のある記事から 内容項目 ◎ A-(1) 善悪の判断、自律、自由と責任 ○ C-(16) 集団生活の充実 ○ B-(7) 親切、思いやり △ C-(2) 規則の尊重 ※◎：主たる内容項目 ○：関連する内容項目 △：主たる内容項目に対立する内容項目</p>	<p>初・避難・助け合い ①：自分で考え行動・役割・ルールより大切なこと</p> <p>ガソリンを抜き取る男性、避難所にいる人々、新聞記者の立場等に立ちながら、自ら考え行動する上で重要なこと、大切なことについて考えられるよう補助発問、問い返しを行う。また、このエピソードから何を教訓とするのかを問う(イメージマップへの追記を促す：毎時間)。 I</p>
<p>毎時間、価値の一般化を促す発問と連動させる形で書く活動を設定したり、授業を俯瞰して感じたこと・考えたことを整理したりする時間を設定したりすることで、高まった「見方・考え方」を基に、これまでの生き方や、これからの生き方を見つめることができるようにする。 B-②</p>	<p>イメージマップの想定及び単元を通しての評価の在り方、通知表・要録への記述例は当日配付資料参照</p>	<p>イメージマップの想定及び単元を通しての評価の在り方、通知表・要録への記述例は当日配付資料参照</p>
<p>毎時間、終末時に「東日本大震災からの教訓」を中心にしたイメージマップに追記する時間を設定する。 B-②</p>	<p>2 時間目 ～エピソード②～ 資料：仮設住宅のグリーンカーテン 内容項目 ◎ C-(14) 勤労、公共の精神 ○ B-(7) 親切、思いやり ○ B-(8) 感謝</p>	<p>②：ボランティア・感謝 支え合い</p> <p>ボランティアをする側、される側の立場から、誰かのために働くことの意義や意味について考えたり、そうした運動が起こるそもそもの人間としての温かさや行動力について考えたりすることができるよう補助発問、問い返しを行う。また、このエピソードから何を教訓とするのかを問う。 I</p>
<p>導入時に「ボランティアって□□」を提示し、エピソード②の中心人物が出した答えであることを伝える。それぞれが考える答えが、教訓につながる可能性があることを伝える。 A-①</p>	<p>3 時間目 ～エピソード③～ 資料：外国からのメッセージ 関連資料：日本に届け、この思い！～世界中からの応援メッセージ～ 内容項目 ◎ C-(12) 規則の尊重 ○ C-(17) 国や郷土を愛する態度 ○ C-(18) 国際理解、国際親善</p>	<p>③：規則の尊重・日本人として・外国との助け合い</p> <p>世界から見た日本、自分から見える日本といった立場から、規則を守ることの意義や意味、日本人として受け継いでいくべきこととは何かを考えられるよう補助発問・問い返しを行う。また、このエピソードから何を教訓とするのかを問う。 I</p>
<p>東日本大震災直後に緊急支援にかけつけた国や、義援金・物資の提供をした国の数を問うことで、多くの国から支えられていたことを知るとともに、震災時の日本が世界からどのように見られていたのかを問うことで、エピソード③へとつなげていく。 A-①</p>	<p>4 時間目【本時】詳細は5.本時について参照 ～エピソード④～ 資料：大切なひと 内容項目 ◎ B-(10) 友情、信頼 ○ A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志 ○ D-(22) よりよく生きる喜び ○ D-(19) 生命の尊さ</p>	<p>④：優しさ・信頼・強い心・友情・励まし合い</p> <p>自分から見た友人、友人から見た自分といった立場から、友人を今まで以上に大切な人と認識した一番の理由は何なのか等について考え、自分と友人双方の関係性から友情・信頼という価値について考えることができるよう補助発問・問い返しを行う。また、このエピソードから何を教訓とするのかを問う。 I</p>
<p>資料名でもある「大切なひと」とはどのような人なのかや、どういった時に大切だと感じるのかを問うことで、エピソード④への興味・関心を高める(中心発問とも関連を図り、児童一人一人が一面的な見方を発揮することができるようにしていく)。 A-①、②</p>	<p>5 時間目 ～エピソード⑤～ 資料：いつまでも繋がらない母の携帯電話 内容項目 ◎ D-(19) 生命の尊さ ○ C-(15) 家族愛、家庭生活の充実</p>	<p>⑤：家族の大切さ・生命の尊さ</p> <p>中心人物に寄り添いつつ、家族の立場や、このエピソードそのものを俯瞰する立ち位置から「生きること」「命そのもの」「家族」の価値や意味について考えられるよう補助発問・問い返しを行う。また、このエピソードから何を教訓とするのかを問う。 I</p>
<p>資料の性質上、導入ではエピソード⑤であることを伝えるのみとし、すぐに資料を提示する。また、資料読み聞かせ後、率直な感想を問うことで、ねらいとする道徳的価値に対する自分の考えを整理することができるようにする。 A-①、②</p>	<p>6 時間目 ～エピソード⑥～ 資料：語り継がれる教訓 内容項目 ◎ D-(19) 生命の尊さ エピソード①～⑥を通して、追記していったイメージマップをもとに自分が考える「東日本大震災からの教訓」をまとめていく。</p>	<p>⑥：命を守ること</p> <p>中心人物の立場から、どのように自分たちの命を守っていきべきなのかを考えたり、エピソード①～⑥を俯瞰する立ち位置から、自分たちは何を学び、今後どう生かしていきべきなのかを考え交流したりすることができるよう補助発問・問い返しを行う。また、イメージマップをもとに、キーワードを交流し、その中から、自分が考える「教訓」とは何かを問う。 I</p>
<p>エピソード⑥には「教訓」という言葉が入っていることから、導入時、授業の最後に、それぞれが考える「東日本大震災からの教訓」を導き出すことを改めて伝える。 A-①</p> <p>追記したイメージマップをもとに、キーワードを交流していく。その後自分が考える「東日本大震災からの教訓」について道徳ノートにまとめる時間を設定する。 B-①、②</p>	<p>追記したイメージマップをもとに、キーワードを交流していく。その後自分が考える「東日本大震災からの教訓」について道徳ノートにまとめる時間を設定する。 B-①、②</p>	<p>追記したイメージマップをもとに、キーワードを交流し、その中から、自分が考える「教訓」とは何かを問う。 I</p>

5 本時について (4/6 時間目)

- (1) 主題名 「東日本大震災からの教訓」 ～エピソード④～  
 【内容項目】◎B-(10)友情, 信頼 ○A-(5)希望と勇気, 努力と強い意志  
 ○D-(19)生命の尊さ ○D-(22)よりよく生きる喜び
- (2) 資料名 「大切なひと」(ふくしま道徳教育資料集『生きぬく・いのち』福島県教育委員会 より 一部改訂)
- (3) 本時のねらい  
 私にとって、友人が今まで以上に「大切なひと」になった理由や、友人にとって私はどのような存在なのか等について考え、議論することを通して、友人と支え合うことの大切さや、人として強く生きていくことの素晴らしさ等について気付き、東日本大震災の教訓の1つの側面として、自分なりの考えを整理することができる。
- (4) 本時における研究の視点  
 本時における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性を整理し、研究に関わる具体的な手立てを以下に述べていく。

本時における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性



個の確立(一面的な見方の発揮)を、A-①, ②で引き出していく。

導入における「空所」「ずれ」「テーマ」等の提示～A-①

単元を貫くテーマ「東日本大震災からの教訓」のもと、第1～3時まで3つのエピソードに触れている児童に対し、第4時では資料名にもなっている「大切なひと」とはどのような存在なのか、どのような時に大切だと感じるのかを問うことで、第1～3時を想起しながら、本時の資料に対する興味・関心を高めていくことができるようにする。また、A-②とも関連させることで、本時のねらいに直結する一面的な見方を引き出していけるようにもする。

立場・立ち位置を明確にした発問の吟味～A-②

中心発問「友人が私にとって、今まで以上に大切なひとになった一番の理由は？」

導入時の問いと関連させながら、「私から見た友人」という立場で「大切なひと」になるための成因に目を向けることができるようにする。東日本大震災という未曾有の災害の中、自分も大変な思いをしているにもかかわらず、相手を思いやる心や、支え合おうとする心、前を向いて歩を進める気高さが友人にあること、そこから私が大きな力を得ていること等について考えることで、「友情, 信頼」という価値に対する一面的な見方を働かせることができるようにする。

多面的・多角的思考を、手立て1で引き出していく。

立場・立ち位置の転換を図る「補助発問」「問い返し」～1

★補助発問「友人にとって『私』はどのような存在になっているか？」

「友人のように強く(優しく)いられるのはなぜなのか？」

★問い返し: ㊦, ㊧, ㊨, ㊩, ㊪, ㊫, ㊬, ㊭を中心に児童の発言や記述をもとに講じる。※教科論参照

大変な状況の中、友人は、「私」の心配をし連絡をとっていることなどから、「大切なひと」になっていることは中心発問後の交流で明らかになると考える。しかし、それでは「友情, 信頼」を一方向からのみ捉えることになってしまう。そこで、「今まで以上に大切だと感じた理由」「友人にとっての私」という視点で補助発問・問い返しを行うことで、「大切なひと」を双方向の関係で捉えることができるようにし、(主として)多面的思考を促していく。

また、その後「友人のように強く(優しく)いられるのはなぜなのか？」を問うことで、東日本大震災という未曾有の災害の中で、人として強く生きることの素晴らしさや、他者(友人)を思いやる気高さについても触れることができるようにする。

その後、2つの補助発問で表出された考え方を俯瞰し、(主観的立場から)「友情, 信頼」について考え、自分にとって重要で価値があると考えるものを選択・判断できるように問い返しを行うことで(主として)多角的思考を促していく。

※多面的思考と多角的思考については、大別はできるが、明確に区切ることはできないものであるため、「授業者の意図として」という意で、(主として)という文言を付加し、区別している。

個への内面化を、手立てB-①, B-②で図っていく。

価値の一般化を促す発問～B-① 自己と向き合う時間の工夫～B-②

★発問「自分が『友人にとっての大切なひと』になるために一番重要だと考えるもの、必要なものは何ですか？」

「今日のエピソードを通して考えた『東日本大震災からの教訓』は何ですか？」

★書く時間の設定

導入時に問うた「『大切なひと』とはどのような人で、どのような時に『大切』と感じるのか」を振り

返り、立場を転換した発問を行うことで、授業全体を俯瞰して捉え直し（双方向の関係性に着目し）ながら、自己の生き方についての考えを整理することができるようにする。「自分に必要なもの」を考える時、児童に限らず人は、これまでの自分の経験をもとに、自分に足りない部分（課題）に目を向けたり、理想とする姿を想像したりすることになる。また、「自分にとって」のみならず、「人として」という意識がこの時期の児童の一部には芽生えることも考えられる。「友情、信頼」という価値を多面的・多角的思考で捉え直すことができた（自覚を深めた or 理解を深めた or 再認識できた等児童によって異なる）上で、この発問を行うことで、「自分」や「人として」といった視点で、自己の生き方についての考えを深めることができるようにする。

また、単元を貫く課題として設定している「東日本大震災からの教訓」についても、イメージマップに追記する時間を設定することで、「友情、信頼」という双方向の関係を俯瞰して捉え、そこから自分が学ぶべき教訓を導き出す材料として整理することができるようにする。

(5) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導 (▲)
<p>1 イメージマップをもとに、エピソード①～③を想起する。</p> <p>2 本時のテーマを知り、「大切なひと」とはどのような人なのか、どのような時に「大切」と感じるのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族が一番大切な…</li> <li>・友達とか、自分を大切にしてくれる人…</li> <li>・困っている時に助けてくれた時に…</li> <li>・後になって「大切だ」と感じるかな…</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> イメージマップを見るよう伝え、単元を貫く課題を再確認する。</p> <p><input type="checkbox"/> 資料名「大切なひと」を提示し、本時のテーマになることを伝える。</p> <p><input type="checkbox"/> 「大切なひと」とはどのような人なのか、どのような時に「大切」と感じるかを問う。</p> <p><input type="checkbox"/> 資料の中心人物「私」が「大切なひと」と感じた人物は誰なのか、なぜそう感じたのかを探そう伝える。 <b>A-①</b></p>	
<p>3 友人の人物像を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メールのやり取りをしている友達</li> <li>・市役所で働いている ・福島出身</li> <li>・強い人 ・思いやりのある人</li> <li>・震災直後市民の対応をしていた など</li> </ul> <p>4 友人が、私にとって今まで以上に大切な人になった一番の理由は何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分も大変な思いをしているのに、「私」のことを心配してくれているから</li> <li>・「私」に心配させないように、前向きなことを伝えているから</li> <li>・友人は役割を最後までしっかり果たしているから。</li> <li>・「私」に力を与えてくれたからかな。</li> <li>・ただの友人だったけど、心の強さを知って、これまで以上に大切だと感じたから。</li> <li>・今までとは違う新たな視点で友人の大切さに気付いたから？今まで気付かなかったのは…</li> <li>・友人の状況を知ったことで、友人の新たな面に気付けたのだと思う。</li> <li>・「私」も、友人の心の支えになっている。</li> <li>・互いに、大変な時に支え合い、励まし合うことで、大切な存在になれるんだと思う。</li> <li>・東日本大震災という大変な災害の中、自分のことよりも、他者のことを考え行動できるのはすごいことだと思う。</li> <li>・優しさが強さになるのかもしれない。</li> <li>・自分にも…友人にも…非常時でなくても…</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 「私」が「大切なひと」と感じている友人の人物像を確認していく。</p> <p><input type="checkbox"/> 友人が、私にとって今まで以上に大切な人になった一番の理由は何なのかを問う。 <b>A-②</b></p> <p><input type="checkbox"/> 状況に応じて、ペア交流や書く活動を設定する。</p> <p><input type="checkbox"/> 補助発問「友人にとって『私』はどのような存在になっているのか？」</p> <p><input type="checkbox"/> 補助発問「友人のように強くいられるのはなぜなのか？」</p> <p><input type="checkbox"/> 問い返し：㊦, ㊧, ㊨, ㊩, ㊪, ㊫, ㊬, ㊭ を状況に応じて講じる。 <b>手立て I</b></p>	<p>▲人物像や、資料の状況把握に時間がかかりそうな児童を中心に意図的に指名しながら、全員が理解できるようにしていく。</p> <p>▲自分の考えが整理できない児童に対し、他の児童の発言の中から一番納得いくものを選択するよう促したり、組み合わせるよう伝えたりする。</p> <p>【観察】 ※発言・ペア交流</p>
<p>5 自分が友人にとって「大切な人」になるために一番重要だと考えるもの、必要なもの考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のために行動したり、支え合ったりすることができるように、相手を信頼したり、相手から信頼されたりすることが重要。</li> <li>・東日本大震災という非日常でなくとも、友達への感謝の気持ちを忘れず、自分にできることを行っていくことが大切で、自分に必要なことだと思う。</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 導入時に問うたことを改めて確認し、自分が大切な人になるために一番重要だと考えるもの、必要なものを問う。</p> <p><input type="checkbox"/> 書く時間を設定する。</p> <p><input type="checkbox"/> 状況に応じて、記述内容を紹介したり、発表を促したりし、全体で交流する。</p>	<p>▲自分の考えが整理できない児童に対し、他の児童の発言の中から一番納得いくものを選択するよう促したり、組み合わせるよう伝えたりする。</p>
<p>6 本資料から、「東日本大震災からの教訓」として何を挙げることができるのかを考え、イメージマップに追記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗り越える力 ・友達との支え合い</li> <li>・自分にできること ・強い心 など</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 今日のエピソードを通して考えた「東日本大震災からの教訓」は何かを問い、イメージマップに追記する時間を設定する。</p> <p><input type="checkbox"/> 状況に応じて、追記内容を発表するよう促す。 <b>B-① B-②</b></p>	<p>【観察】 ※発言等 【道徳ノート】 【イメージマップ】</p>

